

一家洗脳♥ホームステイ



催眠/NTR 美人母娘丼 一家洗脳
ギャル化 常識変換...etc

じゃあ、行ってくるぞ明美。
美亜、今夜はあまり遅く
ならんようにな。

妻
笹野 明美

はい、行つてらっしゃい。
頑張つてきてね。

長女
笹野 美亜

はいはい、お父さんこそ
あんまり残業しすぎない
ように！

はは、わかったわかった。
受験まで半年切ったんだし、
そろそろ気合入れろよ。

いつもどおりの会話。
いつもどおりの通勤風景。

最近、なんとはなしに
この繰り返しに幸福を
感じられるようになった
気がする…。

商社勤務はたしかに
激務だ。それでも、家族を
守るためと思えばどんなことでも
耐えられる。

こんなことを考えるように
なったのも、俺が中年に
なりかけているという
ことなのかもしれない。

ただ、それならそれで
幸せなことだとも思う。

この日常がずっと続けばいい。
そんなことを思いながら、
俺は会社へと向かった。

そのときだった。



突然、目の前で激しい
フラッシュが瞬いた。

スマホのようなもので
何かをされた——？

視界が真っ白になり、
まともにものを考えることが
できない。

駅員かだれかに
助けを求めようとした俺に、
そいつは囁いた。

はい、笹野さん。
あなたは声が出せなくなります。

…ッ!?

はい、いいですね。
さあ、あなたのスマホには
これから、大切な『指示』が
届くようになりますよ。

あなたは、家の外では全く
『指示』のことは認識できなく
なりまゝす。

これからあなたの家では、
少し『おかしなこと』……
が起きるかもしれませんが……
全て笑顔で受け入れましょう……。

さ、手を叩いたら目が覚めて……
会社に向かいますよ……

いつもどおり、普段と変わらない
朝の風景が戻ってきます……

じゃあ、また会いましょうね。
笹野さん……



おほッ♡

んがおおっ♡

んほおっ♡♡

違和感…そう、違和感だ。

この例えようのないもどかしい
感覚が消えなくなったのは、
いつからだったろうか。

会社で仕事をしていても、
電車で揺られていても、
いつも何かを忘れている、
この感じ…

家庭に不満があるわけではない。
心配事といえば美亜の受験の
ことくらいだが…

美亜の成績も、明美が連れてきた
家庭教師の先生のおかげで
だいぶ伸びたと聞いている。

何も心配はない…はずだ。
それなのにどうしても消えない、
この「違和感」。

この感覚のせいで、仕事でも
ミスが増えた。早く忘れなくては
いけない。

今日もまたそんなことを
思いながら、俺は家族が待つ
玄関を開けた。

ただいま。

あらお帰りなさい、
今日は早かったわね。

いやあ疲れたよ。
美亜は？

先生がいらしてるんだから、
『勉強中』に決まってるじゃない。

ほら、帰ったんだから
早く着替えなさいね。
みっともないわよ。

歩くたびにぶるぶると揺れる
妻の巨乳に生唾を飲みながら、
俺は美亜の部屋に向かった。

俺はこの家で
一番下の立場なのだから、
人間のように服を着ていたら
みんなに嗤われてしまう。

おつといけない。
俺は急いで服を脱いで
丁寧にたたみ、下着姿になった。

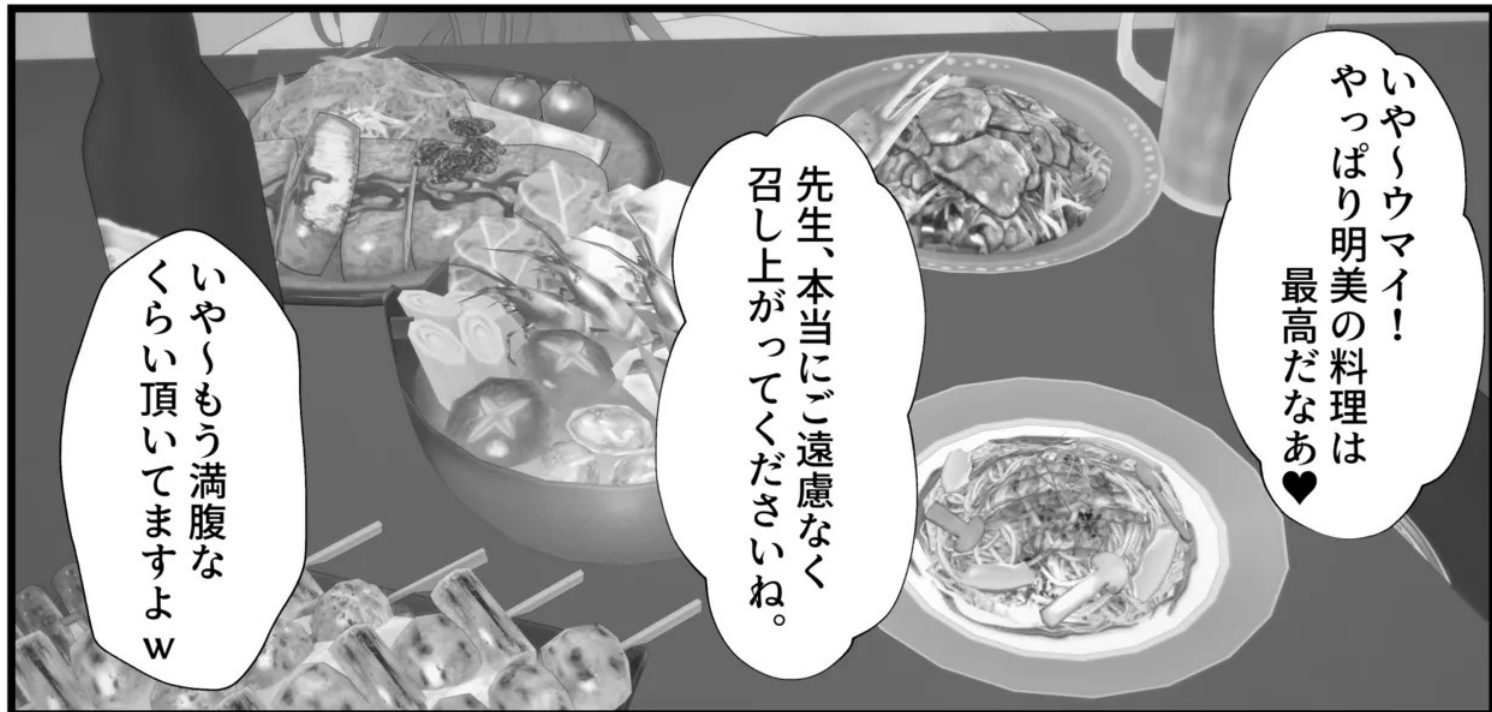
アハハハ

美亜、入るぞ。

ガチャッ！









ンオオオオっ♡
ピストンフェラ駄目えっw

んぽっ♡
んぽっ♡
んぽっ♡

クッソ...
この変態JKがッ!
食事中に下品な
ひよっとこヅラ
見せやがって!

んほっ♡

んほっ♡

んほっ♡

ンオオオオっ♡
ピストンフェラ駄目えっw

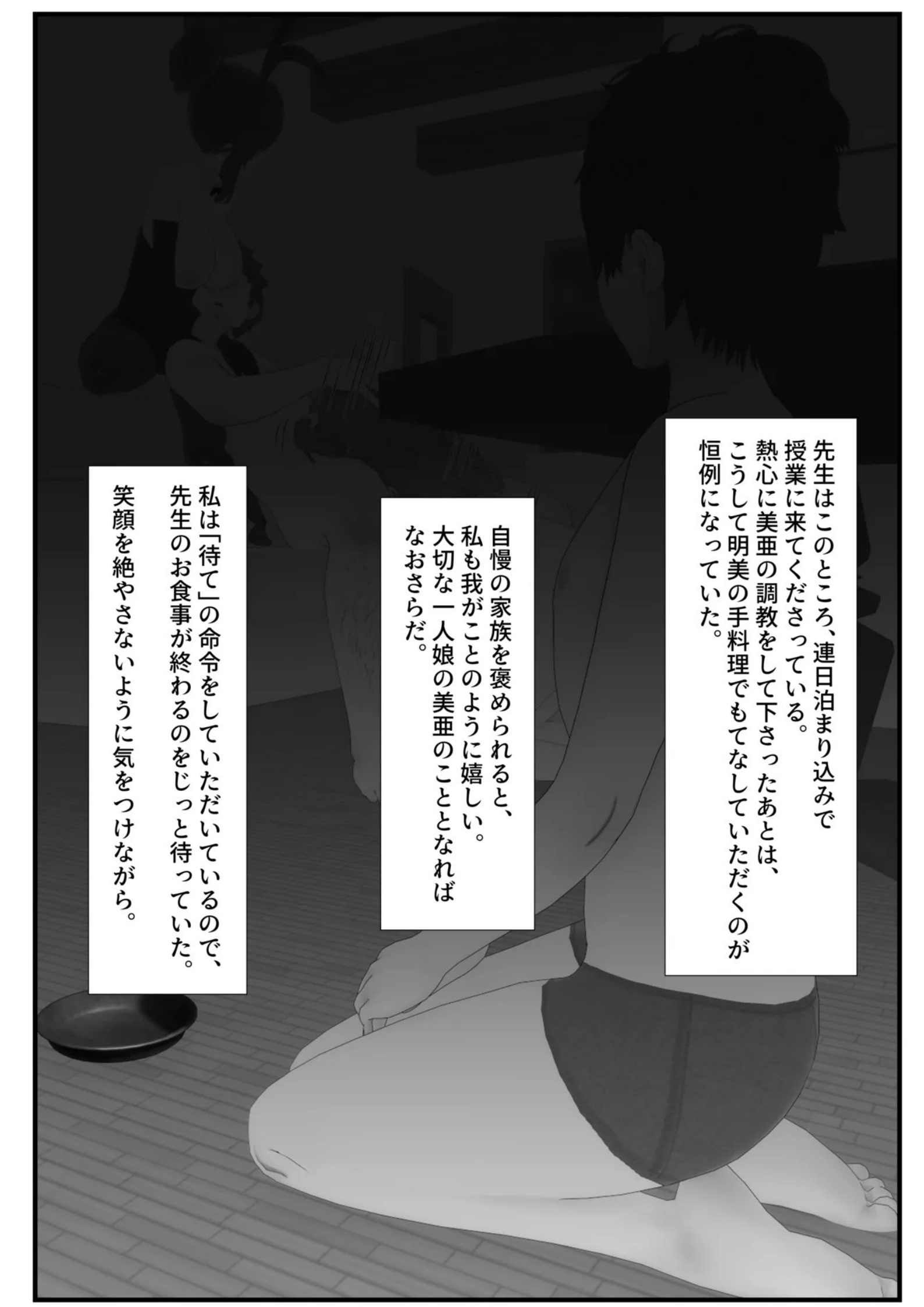
クッソ…
この変態JKがッ！
食事中に下品な
ひよっとこヅラ
見せやがって！



いや、明美の食事最高だけど、
美亜ちゃんのフェラも
さすが優等生ですねえw

今夜こそ食事が先と思ったけど、
今日もごちそうさまの前に
ドッピュンでしたよ♡

お食事中にマナーが悪くて
ごめんなさいね、まだまだ
子供ですから：フッフ



先生はこのところ、連日泊まり込みで
授業に来てくださっている。
熱心に美亜の調教を下さったあとは、
こうして明美の手料理でもてなしていただくのが
恒例になっていた。

自慢の家族を褒められると、
私も我がことのように嬉しい。
大切な一人娘の美亜のこととなれば
なおさらだ。

私は「待て」の命令をしていたので、
先生のお食事が終わるのをじっと待っていた。
笑顔を絶やさないように気をつけながら。



デリヘル嬢

はくッソげっぶ出たw
死ぬほど満腹だわ。

さうて、今夜は
こいつらの脳みそ
どういじくって遊ぶかな♥

この洗脳アプリを手に入れてから、
俺の負け組人生は突然
天国（パラダイス）になった。

高卒ニートだった俺が、
今ではスマホひとつで
女も金も思いのまま。

デリヘル嬢で一通りアプリの
「実験」をした後、
俺が「本番」として目をつけたのが、
隣人の笹野家だった。

俺が小学生に悪戯したと
通報しやがった笹野。

俺がゴミをあさった、下着を
盗んだと言いがかりを付けた
嫁と雌ガキ。

証拠もないくせに一方的に
俺を犯罪者扱いした上級国民共…。
この一家への復讐こそが、
新しい俺の人生の「第一歩」となる。